



「遠野物語発刊110周年記念企画」

遠野のたからもの 動画コンテスト開催!

あなたが「これこそ遠野の宝だ！」
と思う動画を撮影して応募ください。

※応募はメールまたは郵送で受け付け

■締め切り **8月31日(月)** ※17時必着

■応募資格 遠野市在住、または遠野市内に通勤・通学している人

■テーマ 「遠野のたからもの」

■応募規格・条件 ▶ファイルサイズ300MB以内▶ファイル形式「mp4」など▶市内で撮影した3分以内の動画▶携帯電話やデジタルカメラなどで応募者本人が撮影▶応募は1人1作品まで▶他のコンテストなどに未発表の作品一など

■応募方法 応募事項(題名・氏名・年齢・住所・電話番号・撮影場所・撮影日時)を明記・添付して次のいずれかで応募ください。

①共有可能なサーバー(Google Photo、データ便)などへ動画をアップロードし、そのURLをメール送信②LINE公式アカウントに送信③動画をCDまたはDVDに保存して郵送(CD・DVDは返却しません)

■賞 最優秀賞1点(賞金2万円)、優秀賞2点(賞金1万円)、審査員特別賞(賞金5千円)

■選考 Youtube「遠野物語110チャンネル」にアップロードした応募作品から、9月25日(金)正午時点での「高評価(いいね)」数および審査員の評価を総合して賞を決定。

※受賞作の発表・上映は、9月26日(土)の「遠野物語映画祭」で行います。映画祭の詳細は本紙9月号でお知らせする予定です。

■主催 遠野文化研究センター

■応募・問い合わせ (一財)遠野市教育文化振興財団「遠野のたからもの」動画コンテスト係※土日祝休み(〒028-0524、遠野市新町1-10遠野市民センター内、▶電話 0198-62-6191 ▶メール 110eiga@tono-ecf.or.jp ▶公式LINE「遠野のたからもの」コンテスト係「@458pbwia」)

■注意事項 下記URLまたはQRコードのサイト内から応募要項を確認ください。



http://www.tono_etc.or.jp/news/page.php?117

■市史の見どころ—

その1

若竹千佐子さん
特別エッセイ「遠野へ」

本市出身の芥川賞作家・若竹さんが、遠野への思いをつづった心温まる言葉。

その2

市民が執筆した「コラム」

▶遠野はなぜサッカーのまち? ▶遠野でなぜジンギスカン? ▶なぜ遠野と言えば河童なの?—など



■購入方法

市史は、市内4カ所または郵送で購入できます。

▶販売場所

遠野市立博物館

市内書店

遠野市観光協会

遠野風の丘

※郵送購入希望者は、問い合わせください

▶価格 **3,000円**(税込み)

▶規格 A5判、496ページ、フルカラー

▶問い合わせ 市史編さん室(☎62-2340)

■遠野市史写真展

現代編の制作過程で集まった写真を公開!

約50年の歴史が詰まった写真展です。

▶期間 **9月9日(水)~10月4日(日)**

▶時間 9時~17時

▶場所 遠野市立図書館1階ホワイエ

▶休館日 毎週月曜、9月30日(水)

■古い資料を捨てないで!—

今後、現代編よりも古い時代の市史編さんを進めていくため、「歴史資料」を探しています。古くて捨ててしまおうと思うようなものが貴重な資料になるかもしれません。捨てずにお知らせください。

▶歴史資料の例 ①古文書(和紙に筆文字で書かれたもの)②明治から昭和の写真・書類・日記や手帳などの記録③古い電話帳・地図・新聞④自治会など団体の記録—など

■問い合わせ

市史編さん室(☎62-2340)

50年の歩みが1冊に一。

『新編 遠野市史現代編』

昭和40年代から約50年間の歴史をまとめた遠野市史現代編が完成しました。遠野・宮守地域の主な出来事をフルカラー、写真付きで紹介しています。市史現代編の内容や見どころ、購入方法などを紹介します。

市史とは、その土地で暮らしてきた人々が残した資料や伝承を基に、地域の歴史をまとめた書物。本市に関係するものは『遠野市史』と『宮守村誌』がありますが、それぞれ刊行から40年以上が経過してしましました。そこで市は、平成27年度から市史編さん事業を開始。現代編は、市民らで組織する現代編部会が中心となって、資料を収集・整理。市民から提供された貴重な資料や関係者から内容を確認するなど、多くの人が関わって編さんされました。今後は、原始時代から現代までの歴史をまとめた「通史編」とその「資料編」、普段の生活や年中行事などをまとめた「民俗編」を令和5~9年度にかけて刊行していく予定です。

完成した「市史現代編」は、平成の大合併や東日本大震災など、後世に引き継ぐべき事柄を写真付きで紹介。旧遠野市・宮守村、新遠野市の約50年間の歩みを振り返り、現代の遠野を知ることができる一冊に仕上がっています。

「市史現代編」は、昭和40年代から平成の終わりのまでの遠野・宮守地域の歴史をまとめた「新編遠野市史現代編」を刊行しました。7月20日には、あえりあ遠野交流ホールで刊行記念式を開催。市史編さん現代編部会(今野日出晴部会長ら関係者が約5年間の作業を振り返り、喜びを分かち合いました。

過去を知る必携書「市史現代編」

「市史現代編」は、過去50年の主な出来事を10年ごとに区切りながら紹介。

基盤整備や産業、福祉などの分野ごとに旧遠野市・宮守村と新市誕生後の歩みを知ることができます。また、市内11地区の暮らしや特色などを紹介する「遠野まち物語」や「コラム」も掲載しています。

「序章」	遠野の自然と暮らし、昭和30年代までの遠野と宮守の動きを掲載
「第1章」 昭和40~50年代	高度経済成長期、市民の暮らしが大きく変化した時代。▷昭和45年の岩手国体開催決定により進んだ道路整備▷減反政策による農業の大転換▷地域づくりの拠点となる遠野市民センターや宮守総合センター完成—などを掲載
「第2章」 昭和51~60年代	高度経済成長から低成長期に移行。「地方の時代」と言われ「日本列島改造論」のもと地方のインフラ整備が進んだ時代。▷北上山系総合開発▷生活合理化運動▷小中学校の統廃合—などを掲載
「第3章」 昭和61~平成7年頃	バブル経済が崩壊。昭和から平成へ。▷ふるさと創生1億円事業▷高齢者の増加による福祉施策の充実▷少子化対策—などを掲載
「第4章」 平成8~17年頃	人口減少、情報化時代が到来。▷遠野テレビ開局▷介護保険制度スタート▷どぶろく特区認定▷旧遠野市・宮守村の合併—などを掲載
「第5章」 平成18~30年頃	▷新市誕生による新たなまちづくり▷遠野遺産認定制度▷『遠野物語』発刊100周年▷東日本大震災▷市内中学校再編▷2度目の国体—などを掲載
「遠野まち物語」	市内11地区の「まち」を紹介。各地域の暮らしや特色などを紹介
「コラム」	市民が執筆した本市の伝統や文化、人物などを紹介する10のコラムを掲載